

■ 島根県公立大学法人評価委員会からの令和元年度業務実績に関する評価を受けての改善策

評価委員会からの「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価の遅れている点(課題がある点)	島根県立大学の改善策
<p>○ 県内就職について</p> <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内就職率については、平成30年度比3%の減となった。地元企業と連携した取組が行われているが、県内就職者の上積みができていない。(平成30年度:37人、令和元年度:34人) ・また令和元年度、県内入学率を大きく伸ばし、今後も、入試制度改革により、県内出身学生の確保に向けた取組を行うこととしているが、県内での就職に向けて、取りこぼすことがないよう、卒業年次に向けた取組強化が必要である。 ・今後、大学と企業、県等が設立するコンソーシアムの取組等を通じて、学生が地元企業を知る機会の創出や、インターンシップの充実など、県内就職率を高める取組を着実に推進することが望まれる。 <p>【松江キャンパス(人間文化学部)・出雲キャンパス(看護栄養学部健康栄養学科)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の就職実績には、学部改編により、令和4年3月に初めて卒業生を輩出する松江キャンパス人間文化学部、出雲キャンパス看護栄養学部健康栄養学科は反映されていないが、両学部学科の就職状況については、これまでの大学改革の取組を評価する指標として大いに注目しており、学生が就職活動を開始する令和2年度からの就職先確保のための取組の着実な実施を望む。 ・特に、松江キャンパス人間文化学部について、県内就職先企業と大学との関係構築など、学生の企業開拓に向けた取組への注力を望む。 	<p>□ 以下の対策を実施する。</p> <p>【全学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①入口戦略 ～県内高校生の受入れ増加～ 入試改革と高大連携 ○入試改革を進め、県内枠を拡充する。 ○高校と連携して「ともに育てる入試」(連携校推薦)を実施する。 ②出口戦略 ～県内就職者の増加～(50%目標) 企業等と連携 ○しまね産学官人材育成コンソーシアムへの参加 <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③浜田キャンパス新学部の設置(令和3年4月) ○2学部の下に5つのコースを設置 ・国際関係学部＝国際関係コース・国際コミュニケーションコース ・地域政策学部＝地域経済経営コース、地域公共コース、地域づくりコース
<p>○ FDの取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の質を高めるための取組や、教員の資質向上に向けた取組が行われているが、昨年に引き続き、アンケート回答率や教員フィードバック提出率について、キャンパス毎に取組の進捗に差が生じている。 ・取組の遅れているキャンパスにおいては、教員・学生に対し、授業評価の実施に向け、あらためて意識改革を求めたい。その際、教員の学生へのフィードバック提出率が低い中で、学生に授業評価への理解を求めることは難しいため、まずは教員フィードバック提出率の改善が急務である。 ・また、平成30年度実施したシステム改修などにより、回答率や提出率を高めるための対策がとられたが改善に結びついていない。評価対象の授業数を絞り込むなど学生の回答の負担を軽減する観点からの工夫も必要である。 	<p>□ 以下の対策を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①FD委員の教員を中心に教員のフィードバック提出率を向上させる。 ②授業評価対象授業を絞り込むなど、授業アンケートへの学生の負担軽減を検討する。 ③PCでのアンケート回答からスマートフォンを主とした回答方法に対応マニュアルを改訂しあわせてスマホ対応化を積極的に周知する。 ④スマホ対応化にあわせてアンケートページへのアクセス用QRコードを作成し、メール送信、各講義室の出入口をはじめ学内各所への掲示を行う。 ⑤アンケート回答期間開始時にSA・TAを活用して各教室での回答キャンペーンを実施する。 ⑥教授会で目標達成への協力依頼を行う。”